

早期体験学習「救命応急手当」で使用する補助教材の作成とその効果

○森 美佳子¹, 田中 久美子¹, 椿原 沙紀¹, 益川 顕¹, 伊藤 弥生¹, 藤原 洋一¹,
石川 誠司¹, 深田 守¹(¹京都薬大)

【目的】本学では、早期体験学習の項目の一つに「救命応急手当」を設けている。昨年、我々は学生の理解度・実践度を均一なものにすべく、市販のビデオ教材を改良し、授業の構成も同時に再編、一定の成果を収めたことを本年会にて報告した。しかしながら、アンケート結果から同時に、比較的身近に起こりうる「異物除去」、「止血法」などの項目についても理解・実践できるようにすることが次の課題となっていた。今回、これらのことを踏まえて教材を追加作成し、授業への導入を試みたので報告する。【方法】昨年度に使用したビデオ教材に加えて、新たに作成したスライド（「異物除去」「止血法」「AED 使用時の留意点」など）をスクリーンに投影し、繰り返し再生することで実技指導の間中、学生がいつでも見ることができるよう配慮した。これらの取り組みについて、学生と担当教員に PC および携帯電話からアクセス可能な Web アンケート調査を行い、評価した。【結果・考察】学生アンケートの結果より、「人工呼吸」、「胸骨圧迫」、「AED」の各項目については前年度と同じく高評価であった。今回新たに取り組んだ項目に対しての質問「スライドは止血法・異物除去についての理解に役立ちましたか？」に対して、83%の学生が「大いに」あるいは「少し」と回答した。一方、教員の結果からも、「より身近である止血法や異物の除去にもっと力を入れるべきだ」といった意見が数多く見られた。これらの結果から、学生・教員双方に対し「止血法」や「異物除去」といった項目の必要性や有用性を再認識させることに大いに成功したものと考えている。今後は、新しい「心肺蘇生法ガイドライン 2010」に沿った内容での教材作成を検討していきたい。